



日本消化器癌発生学会

NewsLetter

<http://www.j-sgc.org/>

2013 No.1

第24回日本消化器癌発生学会総会のご案内

第24回日本消化器癌発生学会総会を2013(平成25)年9月5日、6日に石川県立音楽堂で開催いたします。金沢での総会は、第4回研究会(1992年9月:磨伊正義会長)と第14回総会(2003年9月:三輪晃一会長)に続いて3回目になります。当地におけるほぼ10年周期での総会担当の責務を実感していますとともに、本学会関係の皆さまのご厚意に感謝いたします。

本学会の一貫した理念とこれまでの歩みに立脚し、設立から四半世紀を目前に新たながん研究領域の開拓の契機になることを願って、本会の総意を「消化器がん制御への歩み」としました。そして、本総会が会員やご参加いただく皆さまのご研究や診療に少しでもお役に立てるよう願って、準備を進めています。

本総会では、がんの代謝特性とがん生物学、消化器癌とがん予防の科学、胆道がんの発生・進展と制御、ヒト消化器がんを外挿する動物モデルを主題として取りあげます。このうち、がんの代謝と動物モデルにはそれぞれ予定演題数の2.5倍と2倍のご応募があり、昨今の関心の高さと重要性が認識されました。残念ながら主題に採択されなかった演題につきましては、主題関連セッションとしてプログラムしました。発がんとがん予防の主題には、今年度の大原 毅賞と田原榮一賞の受賞者が発表予定で、本総会のメインイベントと位置づけて前原理事長に総括していただきます。これらの主題に沿って、がんメタボロミクス、印刷業と胆管がん、原発と発がんに関する講演を企画しています。また、各地からお集まりいただく皆さまを歓迎する気持ちを込めて、今年の国民栄誉賞受賞者の一人の生みの親にあたる当地の方がご講演してください。

これまでの開催準備で一番うれしかったことは、予想以上に多くの皆さまから一般演題をご応募いただいたことです。主題や各種講演もさることながら、学術集会の質を決める礎は一般演題であるというのが持論です。4月下旬の募集終了後もゴールデンウィーク明けまで追加応募のお申し込みをいただきました。その多くが、がん環境、がん起源細胞、上皮間葉転換、分子標的、バイオマーカー、ゲノム・エピゲノムなど時流の内容であり、臓器別に消化器がんの生物学的特性の理解と制御への応用として口演発表を企画しました。少数ですが消化器がんの発生と進展の示唆に富む症例報告を含めて、最新の成果を

ご提供いただけることを期待しています。

本総会の総意「歩み」は棋界の「歩」にも通じます。総会ホームページのあいさつに記載しましたように、がん研究にかぎらず、いまの医学研究における若手研究者の待望に通じるのではないかと考えます。また本会では、若手とともに期待される女性研究者の皆さまのご参加を歓迎します。

今回はこれまでの金沢での開催に倣い、秋の学会シーズンの序盤に予定しました。初秋とはいえ猛暑が予想されます。スタッフ一同、軽装ユニフォームで皆さまをお迎えします。どうぞカジュアルな服装で、学問と金沢の街をお楽しみください。多くの皆さまのご参加をお待ちしています。



写真左より、総会事務局:小竹優範、稲置学園理事:山下智茂氏(星稜高等学校野球部名誉監督)、第24回日本消化器癌発生学会会長 源 利成(金沢大学がん進展制御研究所腫瘍制御) 山下氏には育成講演をお願いしています。

目次

第24回日本消化器癌発生学会総会のご案内	1
第23回日本消化器癌発生学会総会報告	2
平成24年度日本消化器癌発生学会 理事会議事録	3~4
役員・評議員名簿	5~6
編集後記	8

第23回 日本消化器癌発生学会総会報告

第23回日本消化器癌発生学会総会を平成24年11月15日(木)、16日(金)の両日に鳴門市のルネッサンスリゾートナルトにて開催させていただきました。おかげさまでもちまして史上最多の演題応募をいただき、盛会のうちに無事終了することができましたことを、まずはこの場をお借りして深謝申し上げます。

今回の学会のテーマは「消化器癌発生研究のセレンディピティ」とし、プログラムの構成は、既成概念に捕われない基礎と臨床の融合を心がけ、若手や女性研究者参画の促進も重要な課題と捉えて企画いたしました。

シンポジウム14題(がん幹細胞の検出と生物学的意義、エピゲノム研究が紐解く消化器癌発生)、ワークショップ35題(消化器癌の治療効果予測・予後予測のためのバイオマーカー、消化器癌とプロテアソーム・オートファジー)、ポスター発表66題、ランチョンセミナー2題、イブニングセミナー1題のご発表をいただきました。

さらに第1日目には、今回より始まった大原賞(徳島大学宇都宮徹先生)、田原賞(国立がんセンター 牛島俊和先生)の受賞講演に引き続き、招待講演として横浜市立大学の谷口英樹教授より「幹細胞から臓器を作る! 癌研究への波及効果に関する考察」を、Sun-Yat-Sen大学のErwei Song教授より「Regulatory role of miR-27a in VEGF induced endothelial differentiation of breast cancer stem-like cells」のご講演をいただきました。まさに臓器の枠を超えたグローバルな視点からの発表内容であり、ご参加の先生方より高い評価をいただきました。新たな試みとしてのディベートセッション「がん発生の本質に迫る: 遺伝子の異常 vs. 微小環境の異常」や教育講演「大腸癌の発生経路Up to date」のご発表からも今後の癌発生研究における多くの示唆をいただきました。また、特別企画「若手研究者へ向けた癌研究者(トップランナ



写真1 女性研究者のセッション「悪しき古い慣習を破る研究者セッション」終了後、第1会場の前で、演者の先生方と記念撮影

ー)たちの提言」では、基礎研究者の立場より京都大学iPS細胞研究所の山田泰広教授、外科研究者の立場より九州大学別府病院の三森功士教授、内科研究者の立場より金沢大学がん進展制御研究所の矢野聖二教授より、ご自身の研究活動に基づくセレンディピティ(失敗しても落胆せず、本来は探していなかった何かをひらめくことで成功へと導くこと)に繋がるような大変魅力的なメッセージをいただきました。ご参加の若手研究者の心へ熱く響いたものと確信しております。ポスターセッションでは座長を若手・女性に限定して担当していただき、心地よい緊張感のもとで活発な議論がなされました。直後の全員懇親会では阿波踊りの実演と徳島のお酒とともに四国・徳島の空気を十分に感じていただけたことと思います。

第2日目には、会長講演・理事長講演に続いて女性研究者のセッション「悪しき古い慣習を破る研究者のセッション」にて6題のご発表をいただきました。各演者の最後のスライドで女性研究者としてのご意見を自由に述べていただきましたが、本学会における一大勢力へと今後発展していく息吹を感じることができました(写真1)。

今回、教室員あげての手作りの学会運営に力を注ぎ、全国からご参加いただいた多くの先生方を心よりおもてなしさせていただきました。不行き届きの点も多々あったかと存じますが、何卒ご容赦いただきますようお願い申し上げます(写真2)。

最後になりましたが、会員の先生方のご研究の進展とご活躍および本学会の益々のご発展を祈念申し上げます。

第23回 日本消化器癌発生学会総会
会長 島田 光生



写真2 学会終了後、運営にあたったスタッフとの記念撮影

平成24年度日本消化器癌発生学会理事会議事録

日時: 平成24年11月14日(水) 16:20~17:25

場所: ルネッサンスリゾートナルトマジールーム

出席者(敬称略): (理事) 前原喜彦、島田光生、
上西紀夫、桑野博行、汐田剛史
瀬戸泰之、竹之下誠一、夏越祥次
馬場秀夫、平川弘聖、宮崎耕治
森 正樹、安井 弥、吉田和弘
北川雄光

事務局幹事: 清水伸幸、調 憲、野村幸世

オブザーバー: 宇都宮徹、森田 勝

事務局: 齋藤英司、小川桐花

委任状(敬称略)

理事: 源 利成、今井浩三、江角浩安、岡 正朗
落合淳志、高後 裕、菅野健太郎、牛島俊和

監事: 井藤久雄、平田公一

前原理事長が議長となり開会の挨拶を述べ、前回議事録の承認ののち、議事録署名人として上西紀夫理事、宮崎耕治理事を指名し、議事が進められた。

第1号議案 庶務報告

清水事務局幹事より、会員の動向が次の通り報告された。

2011年11月から2012年10月までに入会69名、退会31名の増減があり、2012年10月31日現在の会員数は840名である。

第2号議案 役員選考委員会報告

桑野博行委員長より以下の報告があった。

① 役員について

- ・ 工藤進英評議員については、定年にともない特別会員として引き続き本学会を支援していただくことが提案され、承認された。
 - ・ 平成26年の8th ISGCの会長に前原理事長が内定しており、同年の第25回総会会長についても、前原理事長を会長としてISGCとの合同開催とすることが提案され、承認された。
- 以上について審議を経て承認し、評議員会、総会に諮ることとなった。

② 理事選考について

- ・ 平成21年度第3回理事会での「運用上理事定員を若干上回ることも許容される」との議決に基づき、今野弘之評議員(浜松医科大学)が理事として推薦され、承認された。
- 以上について審議を経て承認し、評議員会、総会に諮ることとなった。

③ 評議員選考について

- ・ 新評議員として、吉住朋晴氏、甲斐敬太氏、島崎猛夫氏、橋本悦子氏の4名が推薦され、承認された。
 - ・ 様々な分野からの新評議員に積極的に学会運営に参加していただくため、理事会、評議員会で基礎系・内科系を中心とした評議員の推薦をお願いしていきたい。
- 以上について審議を経て承認し、評議員会、総会に諮ることとなった。

第3号議案 国際委員会報告

- ・ 安井弥委員長より以下の報告があった。
 - ・ フィラデルフィア大学のProf. Anil Rustgi会長のもと、2012年9月にフィラデルフィアで行われる予定だった第7回国際消化器癌発生学会(The 7th International Conference of the International Society of Gastroenterological Carcinogenesis)が2013年春に延期になったとの連絡があったが、その後の連絡がないため、再延期あるいは中止となる可能性がある。
 - ・ 2014年の第8回については前原理事長が会長となって日本で開催される予定である。
 - ・ 本学会の評議員は、自動的にISGCの会員に登録されることになっており、2010年度から評議員より1,000円を国際学会登録料として徴収しているが、これについては国際学会へ大会運営助成金として支払い、それに見合った形での日本からの参加費減免などを求めていることが承認された。
- 以上について審議を経て承認し、評議員会、総会で報告することとなった。

第4号議案 研究推進委員会報告

- ・ 安井弥委員長より以下の報告があった。
 - ・ 胃癌stage II症例の中でp53, MMP-7いずれも陽性の症例の予後はstage IIIと同等であることが判明したとの最終解析結果が報告され、本学会として英文論文化し投稿する予定である。
 - ・ まだ標本が数セット残っているので、今後検討すべき因子などあれば提案していただき、さらに解析を行っていくことが確認された。
 - ・ ポストG-projectとしてG-projctの成果を踏まえた今後の新たな研究課題を検討したい。
- 以上について審議を経て承認し、評議員会、総会で報告することとなった。

第5号議案 学会賞選考委員会報告

- ・ 安井弥委員長より以下の報告があった。
- ・ 大原賞、田原賞については、各委員による採点の結果を踏まえた前原理事長と安井委員長による協議の結果、大原賞受賞者を宇都宮徹先生(徳島大学消化器・移植

外科学)、田原賞受賞者を牛島俊和先生(国立がん研究センター研究所エピゲノム解析分野)に決定し、理事会の持回り審議で承認を得ている。

・研究奨励賞については、事前の採点の結果、応募のあった大上直秀先生(広島大学分子病理学)、坂部友彦先生(鳥取大学遺伝子医療学)、島田周先生(東京医科歯科大学分子腫瘍医学)、武谷憲二先生(九州大学消化器・総合外科)、馬場祥史先生(熊本大学附属病院消化器外科学)の5名全員を受賞者とし、すでに理事会の持回り審議で承認を得ている。

・平成25年度のスケジュールについては、平成24年のスケジュールに準じるが、研究奨励賞受賞者の年齢制限を「総会当日40歳未満」から「該当年度の1月1日時点で40歳未満」と改めた。

以上について審議を経て承認し、評議員会、総会に諮ることとなった。

第6号議案 倫理問題検討委員会報告

吉田和弘委員長より以下の報告があった。

・昨年の総会で、「日本消化器癌発生学会利益相反の取扱いに関する指針」が制定され、今年度総会から、発表の際にCOI表示が義務付けられた。

・学会役員及び各委員会委員長、倫理問題検討委員は平成23年1月1日から12月31日までの期間の利益相反自己申告書の提出が義務付けられ、全対象者から提出されていることを確認した。

以上について審議を経て承認し、評議員会、総会で報告することとなった。

第7号議案 財務委員会報告

島田光生委員長より以下の報告があった。

・平成23年度の決算について

①会費収入についてはほぼ予算通りの収入があったこと。

②「広告収入」について、ニューズレター広告の収入が減少したものの、パナー広告は予算通りの収入があったこと。

③G-project関係の支出が予算を下回り、支出の縮減につながったこと。

④Oncologyの契約解除により、支出の縮減につながったこと。

⑤それらの結果、繰越金の大幅な増加があったこと。

⑥これらについて、平田公一監事、井藤久雄監事より適正に執行されていることを確認したとの監査報告書が提出されている。

・平成24年度の予算案について、平成23年度決算に基づいて、収入についてはほぼ同額を見込む一方、支出については田原賞・大原賞の楯代等を新たに計上しているが、財政的には安定している旨、島田委員長より資料をもとに説明があり、審議を経て承認された。

・配布した未納者リストを基に、各評議員から納入を呼びかけていただくよう、評議員会にて協力をお願いすることが確認された。

以上について審議を経て承認し、評議員会、総会で報告することとなった。

第8号議案 在り方委員会報告

夏越祥次委員長より今後の学会の活性化のためのアンケート調査で、評議員から以下のような提案があったとの報告があった。

・若手医師の増加による会の活性化を図りつつ、会の質は保っていく。

・内科系・基礎系の会員、評議員の増加を図る。

・予防医学関係者の参加。

・若手への賞の拡充。

・「炎症と発がん」など総会での継続するテーマの導入。

・ミニシンポジウムという形でポスター発表を企画する。

・若手座長の登用。

これらを踏まえ、今年の学会総会についてのアンケートを取って、さらに今後検討していくこととなった。

以上について審議を経て承認し、評議員会、総会で報告することとなった。

第9号議案 会則委員会報告

前原理事長より、今年度は会則委員会の開催がなかったことが報告された。

第10号議案 第22回学会総会(2011年)報告

第22回日本消化器癌発生学会総会は、平成23年11月24日から25日に佐賀県佐賀市、ホテルニューオータニ佐賀で開催され、盛況であった旨、宮崎理事より報告された。

第11号議案 第23回学会総会(2012年)報告

第23回日本消化器癌発生学会総会は、平成24年11月15日から16日に徳島県鳴門市、ルネサンスリゾートナルトで開催される予定であることが島田理事より報告された。

第12号議案 第24回学会総会(2013年)報告

第24回日本消化器癌発生学会総会については源理事が欠席のため、評議員会にて改めて報告されることとなった。

第13号議案 第25回学会総会(2014年)報告

第25回日本消化器癌発生学会総会会長に前原理事長が推薦されたことが報告され、平成26年に8th ISGCと合同開催で九州大学の担当で開催されることが承認された。前原理事長より改めて挨拶があり、平成26年11月21日から11月22日に福岡市のグランドハイアットホテルで開催される予定であることが報告された。

以上

役員名簿

2013年5月31日現在

理事長	前原 喜彦	会 長	源 利成
理事(25名)	伊東 文生 江角 浩安 上西 紀夫 高後 裕 島田 光生 竹之下誠一 平川 弘聖 宮崎 耕治 吉田 和弘	今井 浩三 岡 正朗 桑野 博行 今野 弘之 菅野健太郎 夏越 祥次 前原 喜彦 森 正樹	牛島 俊和 落合 淳志 北川 雄光 汐田 剛史 瀬戸 泰之 馬場 秀夫 源 利成 安井 弥
		次期会長	前原 喜彦
		監事(2名)	井藤 久雄 平田 公一
		事務局幹事(3名)	清水 伸幸 調 憲 野村 幸世

名誉会員・特別会員名簿

2013年5月31日現在

名誉会員(20名)	大原 毅(名誉理事長) 杉町 圭蔵(名誉理事長) 愛甲 孝 小川 道雄 北島 政樹 杉村 隆 田原 榮一 二川 俊二	青木 照明 小俣 政男 小西 文雄 曾和 融生 田尻 孝 三輪 晃一	内田 雄三 金澤暁太郎 佐治 重豊 立松 正衛 寺野 彰 門田 守人
物故者	恩田 昌彦 長與 健夫 豊田 実	下山 孝 磨伊 正義	長町 幸雄 久保田哲朗
			特別会員(34名) 朝倉 均 岡島 邦雄 笠原 正男 工藤 進英 塩崎 均 曾我 淳 田中 紀章 服部 隆則 廣田 映五 三木 一正 棟方 昭博 渡辺 敦光

磯野 可一
小川 健治
兼松 隆之
小西 陽一
砂川 正勝
高橋 俊雄
徳永 昭
比企 能樹
藤田 力也
武藤徹一郎
安富 正幸

岩永 剛
冲永 功太
木村 健
斉藤 利彦
炭山 嘉伸
竜田 正晴
西野 輔翼
平山 廉三
船曳 孝彦
武藤 泰敏
山川 達郎

物故者 馬場 正三

評議員名簿

2013年5月31日現在

(140名)	甲斐 敬太	嶋田 裕	仲田 文造	松本 伸行
相島 慎一	掛地 吉弘	嶋本 文雄	中森 正二	宮崎 達也
浅尾 高行	片岡 洋望	清水 伸幸	中山 淳	源 利成
油谷 浩幸	加藤 俊二	下山 省二	長田 成彦	峯 徹哉
池口 正英	加藤 広行	城 卓志	名川 弘一	三森 功士
石神 純也	金田 篤志	白川 靖博	夏越 祥次	宮内 英聡
石河 隆敏	上西 紀夫	調 憲	楢原 啓之	宮崎 耕治
市川 大輔	川口 実	白水 和雄	西森 英史	宮地 和人
伊藤 心二	川又 均	末廣 剛敏	西山 正彦	向所 賢一
井藤 久雄	川上 和之	菅井 有	野口 剛	森 正樹
伊東 文生	北川 雄光	菅野健太郎	野村 幸世	森田 勝
今井 浩三	北台 靖彦	杉原 洋行	橋本 悦子	八尾 隆史
上野 真一	國安 弘基	鈴木 秀樹	秦 史壮	八代 正和
牛島 俊和	久保 正二	瀬戸 泰之	馬場 秀夫	安井 弥
内田 英二	熊谷 一秀	高橋 孝夫	檜原 淳	八十島孝博
宇都宮 徹	隈元 謙介	田中 信治	平川 弘聖	山口 明夫
江頭 明典	倉本 秋	高橋 豊	平田 公一	山口 佳之
江上 寛	栗田 信浩	高森 啓史	別府 透	山下 洋市
江角 浩安	桑野 博行	田久保海誉	前原 喜彦	山本 博幸
大上 直秀	高後 裕	武富 紹信	藤井 茂彦	横崎 宏
大賀 丈史	後藤 満一	竹之下誠一	藤村 隆	吉住 朋晴
太田 哲生	今野 弘之	田渕 崇文	藤盛 孝博	吉田 和弘
大辻 英吾	佐伯 浩司	塚田 一博	藤原 俊義	吉松 和彦
大平 雅一	澤田 鉄二	塚本 徹哉	藤原 義之	渡邊 聡明
岡 正朗	汐田 剛史	辻谷 俊一	真船 健一	渡邊 雅之
緒方 裕	篠村 恭久	藤 也寸志	松川 正明	
沖 英次	嶋崎 猛夫	富田 尚裕	松倉 則夫	(50 音順)
長田 真二	嶋田 信也	内藤 善哉	松原 長秀	※下線は新任
落合 淳志	嶋田 光生	中島 秀彰	松原 久裕	

第7回国際消化器癌発癌会議のご案内

The 7th International Conference of the International Society of Gastroenterological Carcinogenesis
会長：Prof. Anil Rustgi (Division of Gastroenterology, Departments of Medicine and Genetics, Abramson Cancer Center, University of Pennsylvania, Philadelphia, Pennsylvania, USA.)
会場：the University of Pennsylvania 14th Floor Bio-medical Research Building 421 Curie Boulevard

Philadelphia, Pennsylvania 19104
会期：2013年11月14日(木)、15日(金)

ポスター登録が以下のホームページ (http://www.med.upenn.edu/molecular/symposium_register.shtml) から
できますので奮って登録をお願いします。
締切は11月8日となっております。

第25回日本消化器癌発生学会総会・第8回国際消化器発癌会議のご案内

会期：2014年11月13日(木)・14日(金)
会場：ホテル日航福岡
会長：前原喜彦(九州大学大学院 消化器・総合外科)

日本消化器癌発生学会ホームページ<http://www.j-sgc.org/index.php>のご案内

日本消化器癌発生学会ホームページでは、大原賞・田原賞、研究奨励賞のご案内など、学会情報を随時アップデートしています。
また、学会新規評議員の立候補受付もホームページにて随時承っております。詳しくは下記URLをご参照ください。
(「新評議員募集要項」 http://www.j-sgc.org/index.php?page=annai_hyogibosyu)

登録情報の変更などもホームページ上からお手続きいただけます。
日本消化器癌発生学会ホームページを是非ご活用ください。
また、ホームページへの情報掲載のご依頼、ご要望等ございましたら学会事務局までお寄せ下さい。何卒よろしくお願い申し上げます。



編集後記

インターネットが発達し、情報伝達の中心が紙媒体からホームページへと移行して久しくなります。本学会でも基本的な情報の発信は2001年よりホームページ上で行い、会員の皆様には年1回のみニュースレターという紙媒体の形で情報をお届けしております。

私が医師になった1989年(平成元年)はいわゆる『バブル景気』の真只中で世の中が浮かれている時代ではありましたが、色々な夢を見ることもできた時代でした。我々よりも若い世代は景気が良い世の中を見たことがないので、将来に対して強い閉塞感を抱き、結果的に日本の将来への不安が強まり、景気が回復しないという悪循環に陥っているという説を聞いたことがあります。今の日本は『アベノミクス』による急激な景気回復をみえています。日経平均株価が5年4ヶ月ぶりに1万5千円台を回復し、為替レートも4年ぶりに1ドル100円となりました。これが、『バブル』に帰さないことを願うばかりですが、世の中を回復させる力を日本人がまだ持っているということを国民、特に若い世代が認識できれば、日本の未来もそう暗いものでなくなるように思います。

数年前に私の関係したある研究で、政権交代により研究費が突然3分の1に減額されました。そのような状況では研究が萎縮して思うように結果を出せません。これからは景気の回復とともに、研究に対する補助も回復し、世間からの研究に対する不当な批判が軽減し、多くの独創的な研究が伸び伸びと進むことを期待してやみません。

さて、本年の第24回日本消化器癌発生学会総会は金沢大学がん進展制御研究所の源利成先生が主催して下さいます。第4回総会を磨伊正義先生(金沢大学がん研究所外科)、第14回総会を三輪晃一先生(金沢大学がん局所制御学)が主催して下さいましたので、金沢での本会開催は3回目になります。これまで同一都市での開催は東京の3回が最高で(札幌と大阪で2回開催、広島は国際学会と国内学会の計2回)、これに肩を並べました(ちなみに地方別では関東地方と九州地方がそれぞれ6回、東北地方は残念ながら0回という状況です)。本学会と最も密接な関係のある都市の一つである金沢で、多くの先生方とお会いできることを楽しみにしております。

最後に個人的な内容で恐縮ですが、2001年発行の本ニュースレター第1号から、今回を含めて9回にわたり事務局幹事として編集後記をしたためさせていただいてまいりましたが、私は本年をもって事務局幹事を離れることが内定しており、本稿が私の最終稿となります。12年前に書いた拙文から読み返すと当時のことが懐かしく思い出されます。編集後記を書くタイミングの問題か、同時多発テロやSARS、天災など暗い話題に触れる機会が多かったようですが、最後の本稿は明るい話題に触れたのは幸いでした。本学会が患者さんを治すための研究を進めるという姿勢を貫き今後もさらに発展すること、そして会員の皆様の益々のご活躍を祈念致しております。

事務局幹事 清水伸幸(前 東京大学消化管外科学教室、現 山王病院外科)

発行 日本消化器癌発生学会事務局
〒102-0072 東京都千代田区飯田橋3-11-15
UEDAビル6F
株式会社クパプロ内
TEL: 03-3238-1689 FAX: 03-3238-1837
発行者 日本消化器癌発生学会
編集 総務委員会
印刷 福々印刷株式会社